

▶両市長が出迎え 会場入口付近には松本市長とピクトリノ・ベネガス・シバハ市長の市民へのメッセージが掲げられ、来場者が真剣に見入る姿も。



▶国境を越えて 会場を訪れたサンホセ市長にプロブディフ市長が語りかける。岡山を舞台に姉妹都市同士の交流の輪が広がった。



◀児童の社会見学も 会期中には子供連れの市民や会員が多く訪れたほか、児童や園児が学習の一環として来場するケースも。

▶中米ムード漂わせ 会場案内、記念品配布を手伝う学生アルバイトは民族衣装でハッスル。雰囲気づくりに一役買った。



サンノゼ市親善訪日団来岡

～ 経済交流の可能性を探って ～

昨年5月10日、友好親善と経済交流の促進のため、サンノゼ市長トム・マッケナリー氏を団長とする「サンノゼ市訪日団」一行19名が来岡。「交流促進に関する覚書」を交換し、過去の交流のあゆみを振り返るとともに、両市の友好進展に努めることを誓い合いました。

▶市内観光 午後は岡山城・後楽園等を視察。ボランティア通訳も大活躍。写真は「水辺のももくん」にて。



◀市長表敬訪問 10日午前、岡山空港に到着した一行は早速岡山市役所を訪れ、松本市長に表敬。



▲覚書調印式 行政・教育・報道・経済の各分野に分かれて懇談後、交流促進の覚書に調印。

▶歓迎夕食会 経済・行政関係者を前に、来日の成果と今後の交流強化について、マッケナリー市長がスピーチ。



▶梶谷会長と談笑 本協議会を代表して参加した梶谷会長が市長夫妻と懇談。両市親善に努力することで合意。



初次見面！ 我是韓西英

(はじめまして 私は韓西英です)

～洛陽市友好訪日団が来岡～

昨年5月5日から4日間、『洛陽市友好訪日団』が岡山市を親善訪問されました。一行は韓西英市長を団長とする5人で、現職市長の来岡は昭和59年4月の武振国氏以来のこと。岡山滞在中には、松本市長ら市関係者と今後の両市交流について協議したほか、図書館・美術館等の市有施設の視察、工場見学、名所史跡の訪問を通じて、相互理解を深めました。



◀ 図書館を訪問 翌日は瀬戸大橋を船上見学後、市立中央図書館を視察。子供たちの読書好きに感心する団員も。



◀ 花束で歓迎 5日、岡山駅ホームには八木市助役らが出迎え友好ムード一色に。市民も拍手で歓迎。

▶ 歓迎夕食会 日中関係者が参加し、一行の来岡を歓迎するとともに、懐かしい人々との再会を喜び合った。



▶ 歴史探訪 7日は岡山城・後楽園周辺のカルチャーゾーンを散策。市立オリエント美術館では出土品に触れ、遠くシルクロードに思いを馳せた。



洛陽市建築経済代表団が来岡

～ 先進技術を熱心に視察 ～

昨年3月2日、岡山市の都市建設、経済情報を視察するため、『洛陽市建築経済代表団(団長：周憲界洛陽市計画委員会副主任)』一行7名が来岡。公共住宅、病院、図書館、学校、焼却場、工場等あらゆる施設を視察し、わが国の先進的な建築技術や産業事情について調査するとともに、関係者との協議を通じて相互理解を深めました。

▶ 政策ヒアリング 岡山市の都市計画や建築指導等の状況を熱心に聴取。次々と質問が飛び交った。



◀ 高層住宅を視察 神戸北部にある公団ニュータウン建設現場を視察。林立する高層住宅群に驚嘆の声も。



◀ 日赤病院を視察 最新の医療施設を完備した日本赤十字岡山病院を視察。写真は障害者用の入浴施設の見学。

大変お世話になりました!

～第3回洛陽市技術研修生が帰国～

昭和63年9月に来岡した「第3回洛陽市技術研修生」6人はそれぞれの分野での1年間の専門研修を終え、昨年9月に無事帰国しました。

このたび、研修生の皆さんから岡山滞在の印象や思い出について、懐かしい便りが寄せられましたので御紹介します。



▲同時に岡山に滞在していたサンノゼ交換生のリサさんやミンディさんとも親交。(サンノゼ交換学生を囲む会にて(H11.7.15))

楽しい思い出

張河新

一年間の研修を終え、職場の洛陽工学院(国立工科大学)にもどりました。岡山では技術研修生として先進的な技術を勉強しただけではなく、日本人のともだちも大勢できました。

滞在中、日本の寺や京都の建物、中国渡来の文物など中日間には長い友好の歴史があることを身にしみて感じました。これ以上に忘れられないのは、やはり現代に生きる岡山人々です。市民の皆さんから日本の生活様式を学び、日本料理の作り方まで教えていただいたことが楽しい思い出です。

今後は中国と日本の友好を大切に、仕事の面で努力したいと思っています。

いつも思い出

季炎

帰国後、いつも岡山のことを思い出しています。日本人の一生懸命に仕事をする精神、交通機関の利便性、作業効率の速さにはとても感心しました。

岡山では電子顕微鏡技術と金属材料の分析について勉強しました。研究は大変だったけれども楽しみでした。休日には日本の友達は私に日本語を教えたり、日本の習慣を紹介したり、観光地の案内をしたりしてくれました。岡山の皆様、本当に有難うございました。

一年間で習得した経験は洛陽市でもすぐに役立ちました。技術研修という留学の形はとても良いと大学の仲間が言います。日中友好、岡洛友好のために皆様は洛陽工学院を訪問してください。いつでも歓迎します。

忘れ難い一年間

胡存珍

日本の技術を洛陽市民に伝えることができ非常に喜んでます。

研修期間中、少しも辛くなかったといえば嘘になりますが、美容室の先生方との一年間の勉強を通じて、日本の髪形や風俗習慣を大体理解することができました。

日本と中国とは言葉や生活習慣が多少違うところがあります。しかし、私達は共通の願いを持っており、両国

人民の友好交流の促進を希望しているのです。

岡山の皆様がとても温かくもてなしてくださったことを忘れることができません。

岡山滞在中、御配慮くださった先生方、市民の皆様から心から精一杯の感謝の気持ちを表します。

新年の思い出

朱天倫

1988年の大晦日、研修先の岡山済生会総合病院の看護婦長さんの自宅に招待されました。

当日は中国料理で新年を迎えようという企画で、私は得意の料理をテーブル一面に作り、楽しい談笑の中、乾杯し、歌を唄い、テレビを見て、来る年の幸福を祈りました。夜12時前、日本の習慣に従って年越しそばを食べました。このような風習は中国にはありません。

元旦の朝早く、車で初詣に行きました。手を合わせ黙々と万事好調を祈りました。山の頂上に登り、祖国に向かい本当に色々なことを考えました。

活気に満ち、感動した気持ちで新年を迎えることができたこの日を永遠に忘れることはないでしょう。

愉快的回憶 美しい祝願

閻保定

岡山での愉快的な研修生活は昨日のことのように、瀬戸大橋・桜・富士山・鳩など日本で撮った写真を家族と一緒に見ては思い出しています。特に青空を飛ぶ「和平鳩(中国語)」は印象的でした。新元号の「平成」と同じように、平和と友好、進歩と発展は全世界人民の美しい祝願です。

帰国後はコンピューター技術について研究し、授業していますが、中国の名作「岳陽樓記」から引用され、岡山後楽園の命名の基にもなった“先憂後樂”を座右銘として、中国の現代化のために努力したいと思います。

私達と岡山人民の友誼は永遠です。遙か洛陽から岡山の繁昌と友人の皆様のお健康をお祈りします。

岡山と洛陽

胡小成

私は市民病院と岡山大学医学部で眼科の研修を受けました。人工水晶体の移植、斜視・弱視の治療、眼底癌の治療、網膜剝離の治療、各種特殊医療機器による検査等が主な研修内容です。

岡山滞在中は市主催の県内外の視察に参加したり、毎週土曜日午後には日本語講座で勉強しました。

また、研修先では学会に出席し、旅行やカラオケにも連れて行っていただきました。

大変お世話になった岡山の皆様にお礼申し上げます。中日両国人民は悠久の友好関係と歴史を持っています。これが永遠に保たれることを希望します。

6) 洛陽市立実験小学校の友好校である市立平福小学校を親善訪問。交流会参加、授業参観、給食等、心温まる歓迎の中、相互理解と友好を深めた。(H11.9.9)



One Generation

会員 高原 郁夫

(いしま病院長)

私にとってサンノゼ州立大学で過ごした青春時代（19才から4年間）が歳のせいか最近妙になつかしく思え、10年振りにサンノゼを訪れることとなった。今回の旅行の目的は昔世話になった方々に会うことと、私の保証人でありアメリカのお父さんであった Dr. Watanabe のお墓参りだった。サンフランシスコ空港に降り立ち、昔より小振りになったアメリカ車のレンタカーを運転して一路道に迷うこともなく目的地サンノゼに到着することが出来た。というのも、サンノゼは日本の変わりようと比べほとんど変わっていないからだ。確かに岡山市と都



サンノゼで
お世話になつた方々

市縁組を結んだ当時は人口16万、一面果樹園であったが、今やそのアーモンドやアプリコットの木々は全て消え失せ、サンフランシスコの人口を上まわる77万人を有するシリコンバレーの中心の町になっている。が、大学のキャンパス周辺は余り変わってなく、私が自炊生活をした古い借家も昔のままで建っており、暇にカレッジボーイだった自分の姿を思い出すに十分であった。当時（1961年）米国で初めて日系人判事に選出され、岡山—サンノゼ都市縁組の功労者である Judge Kanemoto 氏は今は白髪の好々爺になられ、またサンノゼ州立大学の校医でもあった Dr. Ishikawa も81才になられたそうだ。両夫妻共お元気で自分の車を運転してレストランに招待して下さった。過ぎ行く年を数えてみると私が初めてサンノゼの地を踏んで20年、いわゆる一世代が過ぎようとしているのである。

最近、日米間の政治経済、特に貿易摩擦が問題化している。現在物議をかもしている「Noと言える日本」の著者石原慎太郎氏が「日本と米国は夫婦のようなもので時には喧嘩もする…」との談を耳にし、もしそうであるならお互い相手を認め、これからもよりよいパートナーとして仲良く金婚式を迎えてもらいたいものである。

姉妹・友好都市

Hola! サンホセ

会員 香川 昌久

(岡山サンホセ交流協会事務局長)

岡山市が、遙かに遠い国コスタリカのサンホセ市と、姉妹都市の契りを結んで20年の歳月を重ねた。昨年、これを記念して、我が岡山サンホセ交流協会は親善訪問団の派遣を企画、7月20日総勢14名が岡山を発った。民間レベルの交流が、行政のそれ以上に真の相互理解を深め得ることを実証する旅であった。大阪から成田、メキシコと乗り継いでサンホセ空港へ降り立ったが、遙々来たという感慨で一同流石に言葉も少なかった。美しい高原の都市サンホセの第1歩は、快適な気温と爽やかな空気に迎えられた。昼の市長主催レセプション、日本大使館表敬訪問、夕べの交流パーティーなど、公式行事は旧知の友の集いのようななごやかさで終始した。訪問団の一人ひとり、日頃必ずしも国際交流を意識して過ごしているわけではないはずである。しかし、サンホセ市滞在中随所にみられた Buenos dias! と微笑み交わす小さな交流が示すように、誰もが国際交流の主役になれる

ことを実感したのであった。交流協会では、訪問に先立ち岡山市でコスタリカの児童画を展示公開した。我々はその交換先の小学校を親善訪問したが、これは今回の旅のなかで最も感動的な交流であった。まず岡山市の児童達の絵に迎えられ、教室では谷義仁団長の日本地理の飛び入り講義のハプニングなどもあって、子供達と言葉の障害を越えた交流があった。手作りケーキと合唱による手厚くしかし気取らないもてなしに、スケジュールは大巾に狂ってしまった。今年は造園技術者の来岡が決まっていると聞く。本協会はこれに微力ながら協力を惜しまないつもりである。それはサンホセ市訪問のあらゆる場面で示されたサンホセ市民の友誼に応えることなのである。

国立博物館中庭
(筆者のスケッチ)



プロブディフを訪ねて

ホームステイ引受家庭 岡本 由佳理
(公務員)

私がプロブディフを訪ねたのは、平成元年3月、おだやかな春の頃でした。東欧旅行の途中、岡山市制100周年記念式典に参加して下さるプロブディフ市長にメッセージを届けるためでした。

ブルガリアは、ボンガール人を祖先にもつ、アジアの騎馬遊牧民族ですが、東ヨーロッパ帝国やトルコの支配を長く受け、トルコ文化の影響が色濃く残っています。6000年の歴史をもち、古代ローマの遺跡もあるこの町は、「バルカン半島で最も古く、最も美しい都市」と評されるだけに、おちついて趣の深い町です。気候が温暖なように、人々もとても穏やかで温かく思われました。メインストリートはいつも活気があって明るく、社会主義国であることを忘れてしまうほどです。

私を温かく迎えて下さったのは、市長秘書のデモフ氏と通訳のアーリアさんでした。アーリアさんに案内して頂いて、民族学博物館や国立美術館、ローマスタジア

ム、解放者の丘に行くことができました。さまざまな国の版図に入り、10回も帰属が変わりながら、それでもひっそりと信仰を守ってきた人々の敬虔さが印象的でした。

この町の特産は、世界の香水の7割をまかなっているというバラの香油です。また、ヨーグルト、ワイン、チーズは絶品だと思いました。

自由化の波の渦中にある激動の東ヨーロッパ、その中であって、プロブディフの人々はどんな気持ちでいるのでしょうか。姉妹都市プロブディフは、また新たな歴史を刻もうとしています。



ゲオルギ・ディミトロフ通り（中央通り）

を訪ねて

洛陽・人々への想い

山名和久

(第1回中国語研修生)

もう30通近くになる洛陽からの手紙。返事を書き、読みかえす毎に、洛陽での日々を思い出します。私の不十分な中国語に、まゆをしめながらも熱心に教えて下さった先生方、生活のすみずみにまで木目細かく気を使ってくれた学生達。意志の疎通ができず、落ち込んでいる私を「慢慢来！」といつもやさしく母のようになぐさめ、はげましてくれた、宿舎のオバさん。

道を行き交う自転車の群れ、うなりをあげて走りぬけ



先生宅での楽しい食事

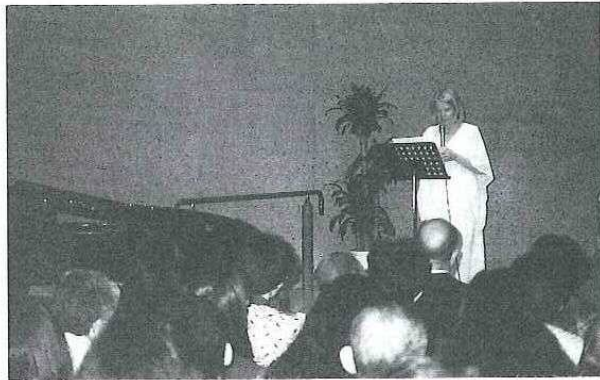
る運搬用トラクター、路端の野菜売り、軒をならべる屋台……。広大なあの国でのさまざまな人々の生活は、私に多様な印象と思い出を残していますが、やはり今でもこうして手紙で話し合うことのできる数多くの友人達とのふれあいがなければ、私の中国理解は決して書物から知り得ることの域を出るものではなかっただろうと思います。

国と国とのつきあいは、機関と機関のつきあい、また取引を軸とした企業と企業のつきあいに流れ易い面があります。これも非常に大切なことであり、広げ深めていかなければなりません。この大きな樹をしっかりと支える根として、人と人との相互理解を軸としたおつきあいをも深めていかなければならないと、つくづく感じるこの頃です。

洛陽の友人達とは、私はきつと一生おつきあいしていくでしょうし、より大きなふれあいの輪にしていくことができればと思います。

洛陽の友人達に手紙する毎に思います。私に中国語という、彼らとのふれあいのできる道具を与えて下さった方々、そして、なによりも彼らとのふれあいの機会を与えて下さった方々に深く感謝致しております。

ふれあिटピックス



▲第2回国際交流講演会を開催(元.3.28)

国際的フルート演奏家マリー・ロレンツ・オカベさんを招いて、恒例の国際交流講演会を開催。会場のオリエント美術館ギャラリーは多くの会員や市民であふれ、第1部「わたしの国デンマーク～国際交流の舞台チボリの思い出など」と題した講演の後、第2部では素晴らしいフルートの調べに酔った。



▲コモエスタ・ウステ!サンホセの皆さん(元.7.20~26)

姉妹都市縁組20周年を記念して、「姉妹都市サンホセ市親善訪問団」が訪米。岡山サンホセ交流協会【会長:谷義仁氏】が企画し、市民14人が参加。「楽しいふれあい、まちの探索、新しい発見」をテーマに「中米のスイス」と呼ばれる美しい国コスタリカの首都サンホセを散策。写真は学校訪問の様子。



◀洛陽『牡丹仙女』が到着(元.4.26)

日本生命保険相互会社が創業100周年を記念して、同じく市制100周年を迎えた岡山市に対して寄贈。岡山市日中友好協会の仲介で、ボタンで有名な中国洛陽市にある王城公園ボタン園の牡丹仙女をモデルに作製し、輸入。市では近く市内の公園に設置の予定。



▲友好の架け橋になろう(元.8.4)

平成元年度派遣サンノゼ交換学生の伊藤洋子さんと榎真由美さんが、訪米を前に松本市長に挨拶。「多くの友人を作り、親善大使として頑張ります」と力強く抱負を語った。同席には、帰国を目前にした昭和63年度受入交換学生デイビッド・アルノ君も立ち会い、1年余りの岡山滞在の印象を爽やかに述べた。



▲剣道少年がスポーツ交流(元.7.18~8.2)

西大寺剣道スポーツ少年団の一行が姉妹都市サンノゼを親善訪問。サンノゼでは市民宅にホームステイしながら、地元の剣道少年たちと交歓練習や試合を行って、友好を深めた。写真は松本市長への出発挨拶の様子で、来岡のミス・ハワイらも同席して懇談。



◀英会話習得はおまかせ(元.8~)

日本政府【外務・文部・自治省等】招へいの英語指導助手3人が来岡。デニス・マリー・ウエンドラーさん【サンノゼ出身】とコリン・デイビッド・クロスリー氏夫妻【カナダ出身】で、岡山に1年間滞在し、市内

の中学校を中心に語学指導にあたる。写真は八木市助役への表敬訪問風景。



▲無念—岡崎嘉平太氏が逝去（元・9・22）

日中国交回復以前から両国友好の必要性を訴え、日中交流の拡大に努められた日中経済協会常任顧問の岡崎嘉平太氏（岡山県出身、満92歳）が逝去された。同氏は岡山市と洛陽市の友好都市縁組の締結に尽力されたことでも有名。昭和63年3月には洛陽市「名誉市民」の称号を授与された。



▲コスタリカに投資しませんか（元.9.30）

日本企業のコスタリカへの投資を促進するため、岡山商工会議所を会場に「コスタリカ投資促進セミナー」が開催された。同国投資促進センターアジア局長リカルド・レオン氏のほか、ミス・コスタリカのルアナ・フリールさんが来岡し、投資環境等について熱心に説明。本協議会法人会員も参加した。



▲姉妹・友好都市をもっと知ろう（元.9~10）

市立中央図書館の2階展示コーナーで「国際交流展」が開かれ、市民や来館者の好評を博した。姉妹・友好都市紹介パネルや特産品、民族衣装が並べられ、外国人来岡者が持参した土産品も合わせて展示。各国独特のデザインや色使いに関心が集まった。



▲サンホセの思い出を再び（2.1.17~29）

平成元年7月にサンホセ市等を親善訪問した市民らが思い出の品を持ち寄り、「姉妹都市サンホセ訪問記念展覧会」を開催。コスタリカムードにあふれる会場の喫茶サンホセ〔駅元町〕では、大きなコスタリカ国旗を中心に色とりどりの民芸品・切手・記念写真が展示され、来場者は遠くサンホセに思いを馳せた。



▲サンノゼに負けるな！さあ数学大会で（2.2.27）

「第22回岡山サンノゼ姉妹都市中学生親善交換数学大会」が実施され、市立東山中学校の生徒574人が20問の数学問題に挑戦。サンノゼ市でも市内129校の中学生〔希望者〕が同一問題に取り組み、後日、成績を交換し表彰の予定。同大会は学力向上と友好促進を目的に、昭和44年に始まったもの。



▲日本コスタリカの友好促進に貢献

昭和63年4月からサンホセ市にある日本大使館附属日本人学校長として赴任している山田羊平氏〔市立興除小学校元教頭〕夫妻は、現在も元気で両国友好のために活躍中。サンホセ市との交流の重要なパイプ役としても大きく貢献。本年8月来岡予定のサンホセ市技術研修生2人の日本語教育も担当。

まず仲良くしよう

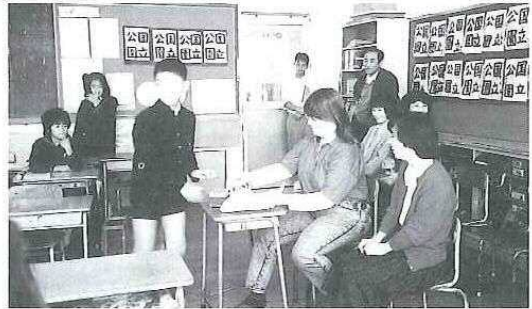
会員・サンノゼ交換学生ボランティア教師

木村明美(主婦)

昨年の春、市制百周年を祝う活気あふれる故郷岡山へ9年ぶりに定住が決まり、うれしさ一杯で早速交換学生の日本語教師をお引き受けしました。10年前までの交換学生しか記憶にない私にとって、彼女達の日本語学習にかける意気どみとそのレベルの高さには驚かされました。国際社会における日本の地位向上と日本語学習者のレベルの向上は比例しているのかもしれないと思ったりしていました。今後日本語を学びたい外国人は更に増えるでしょうから、より効果的なカリキュラムをレベル別に作っていかなくてはと考えています。交換学生のリサさんには、サンノゼのブラックフォード小学校と姉妹校縁組を結んでいる西大寺小学校を2度訪問してもらい、子供達の授業に参加していただきました。彼女が好きなアニメの話などをすると子供達は大喜びで、握手せめにサインせめて、リサさんはびっくりするやらプレゼントの山に大感激するやら、とても楽しい交流でした。西大寺小学校には前後してイタリアとナイジェリアからのお客様もお迎えし、各々授業に参加していただきました。子供達

にとっては地図の上でしか知らない国の人達と現実に関わったという経験はとても印象強く残ったように見えました。最初は恥ずかしそうに、最後には熱狂的に外国からのお客様と仲良くしようとしている子供達を見て、国際交流の基本は、まず仲良くしようという気持ちであることを改めて感じました。

姉妹都市縁組の輪が大きく人々の間に広がっているのを見て、本当にうれしく思いました。小さな交流をきっかけに世界における目がすっかりかわることもあります。友情の輪を広げるお手伝いを今後とも続けていきたいと思えます。



西大寺小学校で(右端が筆者)

你好！洛陽

会員 小 路 広 史

(岡山市日中友好協会理事)

昨年九月、岡崎嘉平太先生が突然逝去された。故周恩来首相彫像除幕式参列のため訪中される直前だった。日中交流の上でまた、岡山・洛陽友好にとって先生が逝かれたことは痛恨の極みである。

一昨年、先生と同行の榮に浴し北京・洛陽を訪問の際日中友好について種々ご教示を頂いた。『これからも共に日中友好を進めましょう』と結ばれた言葉が今も脳裏を去らない。今、日中関係を考える時、返らぬ縁り言だが今一度ご健在で活躍頂きたい思いで一杯だ。



(右端が筆者)
洛陽市対外友好協会会長と

会 員 投 稿

東西緊張緩和、経済摩擦、国際会議開催等、刻々と変動する国際情勢を連日のように、新聞・テレビが伝える中で、『民際交流』ともいうべき、市民同士の心と

昨秋、蓮昌寺での追悼法要に遠路中国寒山寺から性空方丈が参詣され先生の冥福を祈られた。方丈は先生を深く尊敬されており威厳のある中にも慈父の風貌を備えた高僧である。元旦に丁重な年賀状を頂き恐縮したが今春の訪中時に寒山寺へ方丈をお尋ねしたいと思っている。毎年洛陽を訪れるのが私の年中行事だが昨春、第五次岡山市日中友好協会訪問団長として白副市長、王対外友好協会会長を表敬し松本市長の親書を奉呈した。洛陽市関係各位と再会を喜び交流を深め両市の友好増進に寄与出来たものと思っている。中国を旅して洛陽人の熱い友情に包まれると殊の外心に和らぎを覚える。また洛陽大学には岡山市日中友好協会派遣の留学生多数が洛陽市当局の温かい配慮で楽しく学んでおり有難く感謝している。

今年、両市は友好十周年を迎える。洛陽から贈られた牡丹千本が今春開園予定の洛陽牡丹公園で開花し洛陽・王城公園の牡丹と共に友好の花が咲き匂うことだろう。互いに尊敬し理解を深め友好の輪を更に広げるよう市職員O・Bという私の立場からも両市親善のかけ橋となつて次の世代に伝えて行きたいと思う。

我が家の国際交流

ホームステイ引受家庭

田中茂人

(田中診療所院長)

“ただいま” といってポーラがまた帰って来ました。1982年の3月末朝日高校に留学のためにやって来て、何度か立ち寄るたびに第2の家となった我が家に来る度に“ただいま” といって現れるようになりました。今度も、丁度、昭和天皇がおかくれになった直後の2月のはじめ、有機農法の勉強をするのだと、彼女の卒業し



白さんとデイビッド君とリサさん

心のふれあう交流に営々としてつとめておられる方が増えています。そこで、こうした人々にスポットを当て、その活躍ぶりを御紹介することにしました。

私の『国際交流この一年』

あれからどうしていますか？

会員・ボランティア通訳

長原博子(大学生)

昼間の日差しが時折やわらかさを覚えるころ、中米コスタリカから御客様がいらっしゃいました。「日本人以外は英語を話す」なんて小学生でも思わないようなことを、既に成人なのに、実を言えば思っていた私でした。世界にはいろんな国があり、そこではいろんな言葉が話されていることを机上の知識としては持っていましたが、実際に青や緑色の瞳の人がスペイン語でべらべら話し始めた時に、初めて実感したのでした。

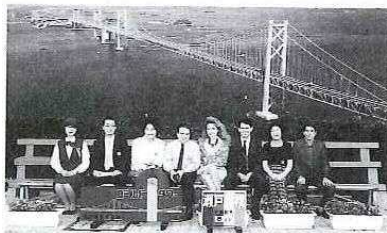
9月30日と10月1日の2日間、皆さんと御一緒させていただいたのですが、写真は初日のものです。中央の金髪の美しい方がミス・コスタリカのルアナさん、左がコスタリカ投資促進センターアジア局長で香港にお住まいのリカルドさん、右がコスタリカ大使館のアルフォンソさんです。熊本からフルムーンでいらした御夫妻も一

たミネソタのカールトン大学の同級生を伴ってやって来ました。丁度、サンノゼのデイビッドも滞在していて、平常は犬の泣き声くらいの家が急ににぎやかになりました。

そして、彼等は松山に住むことになって、英語を教えながら日本語の勉強をしています。時々、最近知り合いになった満州出身の白さんのギョウザに舌つづみをうったりしました。かみさんとそのお田さんは満州にいたことがあるので話が弾みました。8月にはアイルランドのダブリンから教育センターに勤務するサイモン君が登場、当分滞在します。また、デイビッドも再度加わってにぎやかでした。彼等の友人たちも参加して、私達にとっていままであまり馴染みのなかった国や町の話がとても興味がありました。平成元年も暮れようとする11月末には来年2月に岡山大学医学部で研究したいという韓国、大田市のノ一先生が訪れ、3日間滞在、日韓の話も弾みました。つづいて、サンノゼのリサがいつそうにぎやかにしてくれました。年末には、ポーラたちが新しい彼等の家族の愛犬“ミノ”を伴って“ただいま”と帰って来ました。海外からのクリスマスカードもたくさんありました。はてさて、来年はどうなりましょうか？楽しみです。あれからどうしていますか？

緒にということで瀬戸内海、倉敷方面を楽しむことができました。最初コスタリカの皆さんの肩書におそれをなしていたのですが、意外に気さくに話しかけて下さり、心の中の堅いものが消えていくようでした。特にルアナとは年が1つ違いということもあり、随分と話があつてずっと前からの友達のような気がしてしまいました。言葉の御手伝いができれば…と来たはずが、改めて自分の立場や役割について考えてしまいました。ただスペイン語で皆さん同士でお話なさる時は、やはり寂しく思われ、今年から本格的に勉強を始めました。

ルアナが別れ際に「ずっと忘れないからね」と言ってくれたのが本当にうれしく、こういう瞬間がボランティア通訳にとっての醍醐味です。今年もいろんな人とこうした出会いがあればいいなと楽しみにしている私です。



(左から3番目が著者) ボランティア初仕事

(事務局)長原さんは、平成2年度派遣サンノゼ交換学生に選ばれました。

ホット・ミニ情報

- 「姉妹・友好都市のあゆみ」を改訂し、会員に配布した(元.1)
- 洛陽市対外友好協会理事の方双建氏が東京で開催された「三彩に関する研修」に参加するため来日中に来岡(元.2.6)
- 市教育委員会「海外ひとり旅」事業で大学生の岡本由佳理さんがプロブディフ市を親善訪問(元.3.3)
- 洛陽市と友好都市縁組を締結した当時の市長である任普恩氏が同市人民代表大会常務委員会主任に就任。韓西英市長代理が市長に昇格(元.3)
- パシフィックネイバース役員のサリー・フジワラさん[交換学生担当]夫妻が来岡(元.3.27)
- 「大三彩展」開催の事前準備のため、白憲章氏[洛陽市文物園林局副会長]らが来岡(元.4.4)
- 中国の李麟首相夫妻が瀬戸大橋等を視察するため来岡(元.4.15)
- サンノゼ出身の文化人類学研究者ハリー・ホシノ氏が来岡し、吉備路古墳群を視察(元.4.21~23)
- ブルガリア大使館商務参事官のニコライ・ベシコフ氏夫妻が「ブルガリアワイン」の販売促進のため来岡(元.4.27)
- 洛陽市出身留学生で岡山・洛陽両市の友好促進に努めてきた李京氏が帰国(元.5.29)
- 中国北京市で「天安門事件」が発生(元.6.4)
- 永年にわたり岡山・サンノゼ両市の交流推進に貢献してきたパート・ガーリッツ氏が市役所を定年退職。但し、姉妹都市交流には今後とも携わる予定(元.6.30)
- 「サンノゼ交換学生を囲む会」を開催(元.7.15)
- 元中学校長の牧博氏[泉中央町出身]夫妻が洛陽外国語学院日本語教師として赴任(元.8)
- 洛陽市との友好促進に尽された岡山県日中友好協会理事長の安原等氏が逝去。謹んで御冥福をお祈りします(元.9)
- 岡山県日中友好協会が創立40周年を迎え、記念訪中国を派遣するとともに、祝賀会が開催された(元.9)
- 市内デパートで「コーヒーの日」が開催され、コスタリカから関係者が来岡。ミス・コスタリカのサービスもあり、多くの市民で賑わった(元.10.1)
- 岡山市日中友好協会派遣「洛陽牡丹輸入訪中国」が洛陽市を訪問(元.10)
- パシフィックネイバース前会長ブルース・マクレランド氏宅が火災のため全焼したが、同氏は無事(元.10)
- サンフランシスコを中心に「ロマ・ブリナ大地震」が発生。梶谷会長名で見舞電報を打ったが、サンノゼ市の被害は僅か(元.10.17)
- 市職員の今城修氏がサンノゼ市を訪問し、下水処理施設等を視察(元.11)
- コスタリカが民主化100周年を迎えた。1890年に中米初の完全自由選挙を実施(元.11.2)
- 東欧自由化が進む中、ブルガリアのトードル・ジフコフ国家評議会議長が退任。後任として、ペタル・ムラデノフ氏が就任(元.11.10)
- 日中友好交流会議に出席した中日友好協会会長の孫平化氏が故岡崎嘉平太氏の墓参のため来岡(元.11.26)
- サンノゼ交換学生の提唱者でパシフィックネイバース名誉顧問[元会長]のウェード・ホーパー氏夫妻が来岡。市では「感謝状」を贈呈(元.12.29~2.1.2)
- 英語指導助手のデニス・ウェンドラーさん[サンノゼ出身]の両親が来岡。ホームビジットも体験(2.1)
- サンホセ市にある日本大使館で開催された『現代日本のカレンダー展』に協力。カレンダー・ポスター等約50本を寄贈(2.2)
- 外務省「オピニオン・リーダー」招へい事業で来日中のコスタリカ次期副大統領候補[5月就任予定]のヘルマン・セラーノ・ピント氏夫妻が来岡。岡山サンホセ両市の交流促進について協議(2.3.19)

<こちらデスク>

岡山市では国の「ふるさと創生」資金をもとに、平成元年3月末に岡山市国際交流基金を設置し、国際交流の振興を図ることにしています。当面、市では基金の運用収益をもとに、本年秋頃に「インターナショナル・ウィーク(国際交流週間)」事業を実施し、国際交流が市民に、より身近なものとなるようさまざまな事業を実施する予定です。

本年2月の事業アイディアの募集に際しては、会員の皆様には多数の応募をいただいたところではありますが、市では近く事業内容を決定する予定であり、本協議会としても全面的に協力して参りたいと考えております。また、協議会設立5周年を契機に、これまで姉妹・友好都市を中心に進めてきた交流の輪を、さらに広く海外に押し広げていきたいと思っておりますので、皆様の絶大な御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。